

修了生のその後



Hoso backyard house -theCUE-

第1期
第2期



Hoso backyard house -theCUE-

中村文雄((株)中村工務店) 横田圭亮((株)横田)
田中弘志(土地家屋調査士田中事務所)

田辺市の中心市街地は熊野詣の宿場町として栄え、江戸時代には30近く宿があり、多くの参詣者が宿泊していたと言われています。しかし、最近では紀伊田辺駅に降り立っても、熊野古道沿いの地域にすぐに向かうことが多いのが現状でした。

そのため、かつてのまちなかの賑わいを取り戻そうと、LLPタモリ舎を結成し、裏路地にある築80年の空き家をゲストハウス&シェアハウス&カフェバーの複合施設「the CUE」にリノベーションしました。

田辺市を訪れる観光客と移住者、地域住民がつながる(エンゲージメントする)拠点にしたいという思いが共感を呼び、多くのコミュニティが生まれる心地よい空間となっています。



Hoso backyard house -theCUE-

- チーム日向

-

食品加工・販売 CONSERVA

-

(株)堀忠商店

-

BokuMoku

-

AKARI～熊野コネクトショップ～

-

アップライフ(株)

-

焼きたてぱんD'oh!

-

十秋園

-

とりとんファーム

-

お仕事創造空間 シリコンBAR

-

空き家管理サービス たなばん

-

ジビエバーガー

番外編

第1期



僕たちの畠は僕たちで守る 農人と森の番人プロジェクト

岡本和宜(岡本農園)

農業者の高齢化や作付面積の減少、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境はますます厳しくなっています。特に鳥獣害については、年々被害が拡大しており、この地域課題を解決しないと自分たちの畠を守ることができないという思いから岡本和宜さんが中心となり、地域の若手農家で「チームHINATA」を結成しました。

また、獲るだけでなく、解体して食べるまでを一体的に取り組むことで持続可能な活動にしていくと、食肉加工場の誘致やジビエ料理試食会、狩猟体験などの活動を通じて、鳥獣害という地域課題が地域資源へ、そして地域ビジネスへと変わりつつあります。



第1期



東京から龍神村へ移住 café、瓶詰食品工房、パン屋を開業

金丸知弘(食品加工・販売CONSERVA)

イタリアで料理やマーケティングを学んだ後、東京でのシェフの経験を経て、2016年4月に東京から田辺市龍神村へ移住した金丸知弘さん。地域で収穫される少量多品目の果物や野菜を活用した無添加ジャム、イタリア仕込みのパンを製造販売する「CONSERVA」をオープンしました。

その後、龍神村に移住してきたクリエイターたちと連携したイベントを実施したり、近くの空き家を買い取り、移住体験や企業研修に活用できる滞在型宿泊施設にリノベーションする取組にも挑戦するなど、地方での新たな暮らし方をカタチにしています。



第1期



人との交わりでできた日本酒「交」

堀 将和((株)堀忠商店)

世界文化遺産「熊野古道」を訪れる外国人観光客は年々増加しているものの、これまで田辺市には、地域の食を味わいたいというお客様に提供できる地酒がありませんでした。

こうしたことから、堀将和さんは、酒米ではなく、地元産の食用うるち米である「熊野米」を活用した日本酒を作ろうと、県内の酒蔵に協力を依頼し、杜氏と何度も打ち合わせをしながら酒を仕込み、地元のサポートメンバーに協力を得ながら、ワークショップなどを通じて人が交わることで今までにない日本酒が生まれました。堀さんのこれからも人と人をつなげていきたいという思いから「交」と名づけられました。



第1期
第2期



あかね材(虫食い材)に光を BokuMokuプロジェクト

榎本将明((有)榎本家具店)竹林陽子(Colographical)
中川雅也((株)中川)

木材価格の低下や林業事業者の減少により、枝打ちがされず枯れ枝が残ったスギやヒノキにスギノアカネトラカミキリによる食害が増加しています。こうした食害をおこしている木材は強度や品質には問題ないものの、見た目が悪いことから「あかね材」として安い価格でしか売れず、伐採も進まないという悪循環に陥っています。

そのため、市内の林業者、製材所、木工所、家具店、デザイナーなどの若手事業者がプロジェクトチーム「BokuMoku」を結成し、ありのままの素材の良さを生かした地域のものづくりに取り組んでいます。



第1期



竹害から地域を救いたい 「熊野の橋渡し」

赤田政則(AKARI～熊野コネクトショップ～)

放置された竹が、家や畑への日の光を遮り、農作物の育ちも悪くするなど、森林環境や生活環境に影響を及ぼしています。

一方、田辺市は、世界文化遺産「熊野古道」や世界農業遺産といった地域資源を有し、外国人観光客が大幅に増加するなど、その魅力が世界に広がりつつあります。

赤田政則さんは、竹を伐採し被害を低減しつつ、世界中から田辺市を訪れる観光客に「箸」として使ってもらうことで環境への負荷を低減しながら、持続可能な世界遺産の保全へと役立てることができないかと活動を続けています。



第2期



くるまのことは何でも相談に乗ります くるまを置かないくるま屋

登坂知広(アップライフ(株))

中心市街地では、空き家や空き店舗が増加するとともに、高齢化などの地域課題を抱えています。

登坂知広さんは、こうした課題解決に向け、商店街の空き店舗を活用し、車のことなら何でも相談に乗りますという気軽に立ち寄れる自動車サポート事業を立ち上げました。

空洞化が進む中心市街地の賑わい創出に寄与するとともに、車の相談事を通じて地域のお年寄りと元気なうちから関わりながら、将来的には外出送迎支援などのサービスを始めることにより、安心して暮らせる生活サポートまでを一体的に取り組んでいきたいとしています。



第2期



田辺を好きになるパン屋 焼きたてぱんD'oh!

浅賀由貴乃(焼きたてぱんD'oh!)

たなべ未来創造塾を通じて地域のことが大好きになった浅賀由貴乃さん。駅前商店街の空き店舗を活用してパン屋を新規創業しました。パンを通じて地域を知ってもらいたいと「地域コラボぱん」として、同期生の野久保太一郎さんが栽培する多品種の柑橘を活用した季節のみかんパンなどを販売しています。他にも地域の子どもたちに愛されワクワクする店づくりを目指し、落書きコーナーや学生無料ドリンクバーなどにも取り組み、駅前商店街の賑わいに大きく貢献しています。



第2期



子どもたちが憧れる農業を目指して

野久保太一郎(十秋園)

農産物の価格低下により農業所得が低下し、その結果、農業の後継者が不足しています。

こうした課題を解決するため、魅力ある農家を増やし、次世代に農業を引き継いでいくと、年間約30種類もの柑橘が収穫できるという自園の強みを生かして、地域の子どもたちと一緒に「子どもマルシェ」を開催したり、地域の農産品加工場「きてら」や同期生で「焼きたてぱんD'oh!」を開業した浅賀由貴乃さんらと連携し、加工品開発や“地域コラボぱん”への食材提供など、子どもたちが憧れる農業を目指して活動しています。



第2期



食の安全と健康な鶏を追いかけて

石崎源太郎(とりとんファーム)

日本の畜産における飼料の9割以上が外国産を使用しており、安心安全な食を提供してほしいという消費者ニーズに応えられていない現状があります。

そのため、とりとんファームでは、これまで廃棄されていた身近な未利用食材を発酵して飼料に活用するとともに、近隣のしいたけ栽培施設から出る廃菌床を鶏小屋の発酵床に利用するなど安心安全な食の提供にこだわり続けています。また、手作りの鶏舎で平飼いすることで健康な鶏を育て、将来的には、養豚や加工品開発などにも取組の幅を広げていきたいと石崎さんの挑戦はまだまだ続きます。



第2期



お仕事創造空間「シリコンBAR」

石山登啓((株)高垣工務店)

全国的に人口減少や少子高齢化などの様々な地域課題を抱えている中、田辺市では全国平均を上回るスピードで人口減少が進んでいます。特に、高校を卒業し大学進学や就職などで市外県外に転出する若者の社会減少が著しく、その要因の一つに「自分が働きたい仕事がない」ことが挙げられます。

そのため、石山登啓さんは、セミナーやワークショップなどを通じて、新しいことにチャレンジしたい人たちが集まる空間、交流する拠点を創出することで、自分たちの仕事は自分たちで作ろうと「シリコンBAR(知理混場)」を立ち上げました。



番外編



みんながつながり生みされた新名物 「ジビエバーガー」

1期生の中村文雄さん、横田圭亮さん、2期生の田中弘志さんら LLPタモリ舎が運営するthe CUEの名物「ジビエバーガー」。

1期生の岡本和宜さんら(株)日向屋の鳥獣害対策の取組に感銘を受け、カフェバーのオープンにあたり、ジビエを活用したメニューを開発しようと決意しました。

ここで協力したのがイタリアンシェフである1期生の金丸知弘さん(CONSERVA)。これまで使われることの少なかった部位を活用したメニュー開発・監修に取り組みました。

さらに、2期生の淺賀由貴乃さん(焼きたてぱんD'oh!)がパンズを提供することで、たなべ未来創造塾の修了生たちがコラボレーションして新たな名物「ジビエバーガー」が誕生しました。



第2期



空き家管理サービス「たなばん」

田中弘志(土地家屋調査士田中事務所)

田辺市の空き家率は18.5%。全国平均の13.9%を大きく上回っています。さらに、その空き家のうち52.2%が駅から2km以内の市街地に集中するなど、大きな地域課題となっています。(平成25年住宅・土地統計調査より)

しかし、老朽化された空き家がそのまま放置されていたり、「荷物が放置されている」「知らない人には貸したくない」などの理由から活用される空き家が非常に少ないという現状です。

そのため、空き家管理を受託することで、所有者との信頼関係を構築し、その後の活用につなげようと、2期生の田中弘志さんが中心となり、美装業者、司法書士とともに空き家管理サービス「LLPたなばん」を結成しました。



さあ、未来に向けて、

新たな一步を踏み出そう!

